

下野コミュニティエフエム第6回放送番組審議会議事録

開催日時：2021年6月24日(木)	開催場所：下野市役所第304会議室
出席委員：猪瀬・小島・小谷野・鈴木・根橋	；5名

※発言については趣旨を変えない範囲で一部を省略・要約しています。

委員全7名のうち5名の出席をもって会の成立とし、15時00分に開会した。

1. 報告事項

・ 運営状況

ケーブルビジョン株式会社ラジオ事業部管理責任者

・ 新任委員挨拶

小島委員(一般公募)・根橋委員(一般公募)

・ 副委員長選任

山内委員長が欠席のため、事務局より小谷野委員を副委員長に推薦し、承認された。

2. 審議事項

・ 議題…番組内容について

事前を送付した資料(記録物)を各委員が聴取し、それに対して委員が意見を述べた。

※2021年5月21日放送「ウィークエンドワイド」

小谷野副委員長：

既にご送付資料で聴いていただいていると思うが、これについての意見があれば伺いたい。

根橋委員：

番組進行表を見て、大きな構成で16個あり、間に曲やメッセージが各4回ほどあった。2時間を作るのは構成含めてきちんと滞りなく進行を進める苦労があったのでは。

ただ、その中でいくつか気になったことがあった。

まず、色々テーマが出てくるが、これはどなたがどのような理由で決めているのか。

毎回スナックゆうがおで二人の掛け合いがあり、例えば旬だからとかそういった意図があると思うがどのようなかたちで決めているのか。

また、ヘッドラインニュースやワールドニュースでも、色々面白いニュースを取り上げているが、こういったものどなたがどのような意図で選定しているのか。

また、料理レシピが出てきたが、管理栄養士とかの監修や指導は受けているのか。

内容は週末を意識して、例えば今週の総合的なニュースとしてテーマ設定されているのか。

また、栃木市のFM局と協業していたが、非常におもしろい取り組みだなと感じた。番組を単独でなく協業することによってお互いができる部分も多々あると思うが、これをどういう形で今後展開していこうと思っているのか。

事業者：

どの番組でもテーマを設けているわけではないが、この番組は週末の夜なので若い方も聴いていて、娯楽と情報がコンセプト。パーソナリティがバーのママに扮してトークするコーナーなどもある。

毎回のテーマは基本的にパーソナリティが決めているが、番組の主旨や時間帯、公序良俗に反しない範囲で決めるように大枠を監修している。

これに基づいて番組のパーソナリティ、この番組なら及川・角田2人が旬や地域・世間の話題など色々なジャンルの中から考えて決めている。

また、ニュースに関しては、各新聞社のネットニュースの栃木版から引用という形で読んでいます。

ウェブからページを決めてそこから担当パーソナリティがその都度選んでいる。

ニュースは優先順位を決め、まず下野市内、次に小山や宇都宮など近隣、なければ県内全域から。

ニュースの要領は全番組共通である。

レシピに関しても、他の放送局でもよくあることだが、ネットから拝借している部分もあるので、特に専門の方の監修というのは直接受けてはいないが、信頼できるところから情報を入手している。

共同制作は、隣の栃木市のFMくららさんと4月から月1回10分程度で、互いのイベントや地域の情報などを双方のスタジオを繋いで紹介しており、その時間はFMくららでもこちらの音声の流れる。

他地区では共同で番組を作るなど例が多い。栃木は5局になったが、横の結びつきがあまりない。

しかし、それぞれ独立した別会社なので話はそう簡単ではないが、折を見て話を進めていきたい。

根橋委員：

パーソナリティが独自に考えているという話だが、皆個性があって面白い。

同業の活用というのはこれから考えていかないといけない。単独でできる事業というわけではないので、今後どのようにするかというもっと大きなビジョンを描いていったほうがいいと思った。

料理のレシピは非常に簡単で、これだったら男でもできるなどと思って聴いていた。最近コロナ禍で在宅でいる機会が非常に多いので簡単にできてしかも高カロリー、今回は豚肉と高野豆腐だったが、高野豆腐は植物性タンパク質、豚肉はビタミンという話をしていただいていたがよかった。ただ、ここでフレイルという単語が出てきたが、広報を見ると、4・5・6月と特集をしている。であれば、そこで一緒に「フレイルというのはこういうことがある」とか、フレイルはなることがまずいのでそういう情報を入れておいた方が、内容に幅が広がるのかなど。市の広報との協業というか、そういうことができるのではないかと感じた。

シティインフォ、内容にびっくりした。5月21日はコロナワクチンの接種が始まった頃。国が何パーセント接種したという情報を発信しているが、そういった情報がこの中には欠落している。通常の番組でも一般的な話しかしていない。県の情報より、もっと身近な情報を発信していかないと。最近情報が錯綜している。総合的に市と協力して出すべきでは。まして週末だからそういう割合が高いのでは。市とどういう関係になっているかよくわからないが、その連携がもっとやるべき内容では。

小谷野副委員長：

確かにワクチンの接種などの状況についてはFMにお願いしてシティインフォとかそれ以外の番組でも放送してもらうようにしているが、やはり市民の方が一番知らなくてはいけない情報をこれからも積極的にお願いするようにしていきたい。

根橋委員：

そこで何が一番重要かというのは調整していかないといけない。番組では路上禁煙と軽自動車の減税と行政書士の相談だったが、これは端的に周知すればいいだけ。何が旬かといったら今はコロナだと考える。その情報が欠落していると思った。

鈴木委員：

シティインフォなど市からの情報をまとめてやるのではなくバラバラにやるのが聴きやすいと思った。市の広報ばかりずっとやっていると嫌になってしまう。

そこで根橋委員からあったコロナ情報はやっぱり今一番関心があるのかなと。またお子さんの接種についても迷われている方がいるのかなと。

職域接種とか色んなものが始まってきて、東京に行く人はいないと思うが可能性はなくもない。

そういったことで大分動いているので、やっぱりニュースは最新の情報が欲しいなという気がする。

独自取材はできないものか。市からこれを流して欲しいというはなしで分けられてるのかなと思うが、市は全体を見て計画的に進められているだろうが、ラジオのリスナーとしては、私はいつ打つのかなとか結局個別の話になってきてしまうのでそこにマッチングした話になるとなるほどなど。なかなか独自取材というのは難しいのか。

事業者：

当社のような規模だと、独自で取材、特に健康・財産・生命に関わるような情報に責任が持てない。例えば新聞社のように部門別になって独自取材を出来る体制にない。

今のところは行政からいただいた情報を迅速に伝えるというところやっている。

鈴木委員：

比較的下野市がいい方向で進められているということのを伺っている。データも出ている。下野市は早かったのでもいい意味でもこの次64才未満の場合や職域とかどうなっているのか、流れがわかるような新しい情報というのは、運営のコンセプト「市民を一番に考える放送」それから「下野市の今が見える放送」なので、その2つは今はやっぱりコロナかなと。そういうことになるのとコロナ情報をどういう風に一番流していくかという、取材のことを考えると難しいなというのはわかるが市との連携の中で、広報も来るが広報は後から来る、FMはその場でタイムリーな、聴いた人が納得していただけるような、今まで何パーセントくらい進みますよと言われただけでも「あれこれ地元の新聞にも出てなかったけどFMでその話聞いてじゃあ私もちょっともっと積極的に予約取ってみるか」「もう一回考えてみるか」という判断の材料にもなるのでは。

根橋委員：

特にコロナは最初の4月くらいに市長が出演してメッセージを出した。であれば別に詳細な数字でなくてもいい、進行形としてどうなのかと。回覧できるのは後。旬の情報というものは必要では。

小島委員：

今回CDラジカセを購入した。ある程度は入るが雑音があって聴けない。しょうがないから違うラジオで聴いている。新しいラジカセを買ってきた際に聴ける努力が必要と感じた。

事業者：

去年8月に送信出力を10wから20wと倍にはしたが、聴こえない地域は市内でもやはりまだある。

各方面と調整して最大限聴こえるようにしたが、出力が大手局に比べると100分の1などの程度で、こればかりは企業努力ではいかんともし難い。コミュニティ放送業界では出力を上げてくれといった陳情は以前から全国的にはしているが難しく、これ以上は厳しいと感じているところ。

なので、放送の聴き方を案内して、あとはインターネット放送の案内をしている。

ただ、お年寄りにインターネットで聴けというのは難しく、それでも聴こえないとなると私どもとしてはどうしようもないというのが実情である。

下野市防災ラジオは市販のラジオに比べて感度良くできていますので、場合によっては聴こえやすい。

市民からの「聴こえない」という問い合わせには、状況をお聞きして最適な聴き方を案内している。

番組に対しては厳しいご指摘をいただいたが、全ての番組がテンポが速く早口というわけではない。金曜は若者の方も多いため考慮してのことで、ご高齢の方をないがしろにはしていないわけではない。タメ口も、若者に向けた部分もあるので多少ラフではあるが、管理側としてはこういう番組だからと緩急を織り交ぜてやっているとご理解いただければ。

スナックの設定に関しては以前からやっており、コロナで抑えられている部分を番組の中だけでも楽しんでいただけたらという思いもある。飲酒を推奨しているわけでもないの、問題ないと思う。

ただ、ご指摘の部分は今後課題とさせていただきます。

小島委員：



事業者：



小島委員：



事業者：



猪瀬委員：

他の局では、ヒットチャートの曲を流すところが多いのに、あえてここは懐かしい曲が流れている。選曲はどなたがどのようにされているのか。

事業者：

これは番組内容と同じで基本的には大枠で番組はこういう選曲という方針を決めて、日々の選曲はパーソナリティに任せているので、パーソナリティの年代とか、人生経験や趣味によって個性も出る。おっしゃったように、ヒットチャートに出る曲はナックファイブさんとかレディオベリーさん、もしくはインターネットで聴いていただいて、私どもは中高年やご高齢の方に懐かしい曲を中心に。音源も、ヒット曲は流行り廃りが激しくせつかくCDを買っても1ヶ月もすると要らなくなってしまうというのがるので、他との差別化も兼ねてあえて古い曲を中心に選んでいる。

猪瀬委員：

自分があの頃に聴いていた曲が今流れるって他にないという意見があった。音楽の文化は日々変わり、曲調なども変わっていくが、懐かしさを感じながら自分の気持ちだけはそこにフィードバックしていく気がした。選び方がなかなかいいかなと思った。また、番組を誰に聴かせたいかというところで、週末なら今は家に真っ直ぐ帰る方が多いだろうが、普通のサラリーマンであればコロナが関係なければ自治医大周辺の飲み屋に行ってるかも知れないが、今はそれが無いので、家に帰ったときに家族と聴いていると、親の世代とギャップが出てしまって、音楽は家族の特定の人しか面白味がないと思うことがあった。もう少し幅を持たせてもいいかなと。自分のリクエスト曲がかかって喜んでいたメッセージもあったので、そういうのを待っている人もいるんだなと感じた。自分もいいところ共感できる。

鈴木委員：

パーソナリティが早口との意見が先程あったが私もそう感じた。2人の掛け合いがテンポが良くて、全体的にアップテンポでワクワクする楽しい雰囲気良く出ていると思うが、ただやはりこの女性は、話すスピードが速いと感じた。審議委員が比較的年齢層が高いので、もう少し若年層を委員にすると、ちょうどいいのかももっと早くしてとか意見も出る感じもするが、個人的には女性の方が早いと感じた。高齢者にはちょっと厳しい。

また、前回(第5回)でも言ったことで申し訳ないが、交通情報。宇都宮や小山・上三川でも聞こえ、私も車で(その地域を)ぐるぐる回っているの、ありがたい。前回の資料番組のパーソナリティは「とちぎはくばし」と読んでいたが、今回のパーソナリティは「とちぎはくきょう」(とちぎ博橋)と呼んでいた。前の方は「はくばし」で、今回は「はくきょう」。そして個人的には「とちぎ博」にちなんだ橋なので「とちぎはくばし」。切らないでワンフレーズで「とちぎはくばし」とずっと思っていた。「とちぎ・はくばし」や「とちぎはくきょう」だと違和感。また、パーソナリティが今度は旧4号で「にしばら」と言っていたが、「にしばら」とはどこか。私はよく知っている。「にしばら」だ。そのパーソナリティは「まだ下野市民新人です」と書かれていたが、非常に重要な情報なので、その辺は統一があった方がいいのでは。県外から来られた方にはふりがなをふったほうが、聴いている方にとっては重要情報なので気をつけた方がいいと思う。ただ先程(事業者に)聞いたところ、購入している情報でこちらで勝手にするわけにはいかないと。私もなんとなく解るが、リスナー本位で考えると改善された方がよい。毎日何回もやっているの、注意した方がいいのではと感じた。

また先程ヘッドラインニュースの話もあったが、今回のヘッドラインでは下野市の話がなかった。たまたまかも知れないが、皆さんが関心を持っている話題はヘッドラインでも流してもいいのかなと。市民が関心を持っていて少し心配されている事や、「え、そんないいことあったの」という話とか。いい情報はどんどん流していただいて。困った情報もたまに流れるが、ヘッドラインの中であれば。加えて少し深掘りのコーナーがあるとよい。コロナに関しても市の情報で接種の予定はこうですよ、そこに「ここまで進んでいると市から情報があります」と。そこに市の職員が来て話をしてもいい。だがそういうコーナーばかりではないだろうから、ちょっとした先進情報、文字の通りニュース、そういったものがあると関心が深まるのかなという感じがした。

小島委員：

(資料の)主な番組構成のなかで「学校」というのがある。

私はコミュニティスクールの委員で、地域に開かれた学校という風になっている。

小学生中学生、石高、自治医科大学、その学生さんに出ていただく。人口6万人で中高大全である。

石高は進学校だし自治医科大学は医師国家試験で合格率が常にトップで、素晴らしい知的財産がある。

その辺を意識して、学校の先生を呼ぶとか、小学校高学年、中学校、石高、それから自治医科大学、そういう学生に参加していただくような狙いや思いはないか。

事業者：

まず、こちらの資料は開局前のものだが、こういったことをしたいなという思いはもちろんある。

ただ、ご指摘があった学校に関しては、始めてみたらなかなか、学校のせいにするわけではないが、学校側の事情というものが色々と込み入っており、実際難しかった。

例えば、これはあくまで市提供番組の話だが、出演を以前依頼したところ石高さんから断られた。

ただ、今日たまたまだが、上三川高校放送部の生徒さんが録音で出演し収録したものを放送した。

小・中学校と、生徒さんの安全やどこで収録するか、時間の問題など、ご興味を示していただける先生や親御さんはいらっしゃるが、例えばあそこがやってここがやらないなどの話があったりなどで、またコロナの影響もあって実現はしていない。これに関してはぜひやっていきたいと思っはいる。実現していないだけというところ。

また別に考えているのは、例えばボランティアスタッフという形で、学校単位ではなく市民の中で公募をして学生さんに参加をしていただくとか、色々な形で今後参加していただこうと思っている。

小島委員：

それに関しては小谷野委員にぜひお願いしたいのだが、地域資源として小中高大がせっかくあり、市の重要な財産だと思うので、番組などで子供達が出るというものが常時あれば。

上三川高校が出来て石高が断られるというのは体質の問題。石高には放送部があるのだから本当は石高のほうからぜひ参加させてというくらいがあるべき。

メディアをオープンに使うって学生が色々な発表をできるような、市の戦略として今後そうすべき。FMもせっかくできたのだから、我々年寄りだけの番組になってしまうんじゃないか。市の戦略としてもFMを活用しながら小中高大や生涯学習を意識的に番組制作をやっていただきたい。

小谷野副委員長：

市でも教育委員会や教育委員さんから子供達が出演できないかというお話があったりしたので、協議はさせていたのだが、事業者から先程話があったように、お昼の時間がなかなか合わないとか、コロナの関係でスタジオに来てもらうのも難しいとか、色々重なって実現できていない部分がある。そのへんは十分教育委員会と協議をしながら進めていきたい。

鈴木委員：

私も上三川高校に勤めていたが、上三川高校の放送部は全国大会に行ったり、それから石橋高校も朗読部門なんかでいい成績を挙げている子がいるので、関心ある子はいるのかなと思う。

私がいたときに、県の教育委員会から上三川高校のPR番組を30分お願いしますと依頼があった。学校の方で承諾して30分の構成を生徒諸君を中心にして作ったことがあるが、生徒が協力してくれた。30分は少し長いが、10分でも作ってくれる。部活動や委員会活動の中でやってくれる可能性はある。

また、今は各高等学校も宣伝の時代になっているのでこういうメディアで放送していただけるのは非常にありがたいこと。断ることは如何なものか。せっかくのチャンスをもったいない。

根橋委員：

番組で、クラブゆうがおとマガジンの話が3回くらいあり、知名度のアップを図っていると思うが、メールなどの反響を見ると、開局1年半でこれだったら結構多いかなと思う。

また、資料番組では、山口県や札幌からメッセージが来ていた。ということは広範囲に聴いている。そうすると色々活用する方法があると思う。ラジオショッピングとか。

ここ下野はかんぴょう日本一。それを売り出すとかやり方がある。そこに共同制作が入ってくれば、下野市だけでなく栃木市であったりだとか、そうすれば栃木県は魅力度最下位という汚名がある以上、それを返上できるとか、そういう活用もできると思う。

FMゆうがおのKPIがあると思うが市もあるはずで、市としてもラジオを通じて市のビジョンをどう書くか。そういう中でFMの位置付け、ビジョンがあると思うので。次回はぜひそれを見せていただいて意見を出させていただければ。

せっかく放送している以上リターンを求めないと無駄。ゴールはどこかというのを作っているはず。単にFMの放送についてどうですかという話ではなくて。

全国各地にリスナーがいてこの反響はすごい。特に今SNSでいいと思えばすぐ発信できるので、ひょっとしたら市のかんぴょうが一躍火を噴くかも。私はメーカーにいたので販売に使えると思う。何もせずに情報がぱっと流れる、そういう活用もあるのでは。

鈴木委員：

根本委員の考え方に賛成。それぞれのパーソナリティも楽しい番組、身近な話題というのが重要。

(資料に)謳われているように「市民と共に作る放送」とか「いざというときに頼りになる」とか、そういったことを考えると、市に今いくつかある課題、例えば外国人問題とか男女共同参画社会とか、「こういう課題があるがこういう方向に進んでいますよ」とか、市長・市議選挙や衆院解散のときにマスコミの果たす役割は非常に大きい。

ただ、コミュニティFM放送がどういう役割を果たすのか、私も考えが纏まっている訳ではないが、この下野市でよりよい社会を作るための一つの重要な武器になっているのでは。市もそういうことで立ち上げた訳で、事業者もそれに同意して乗ってきたのだから、市の課題を少しでも解決するよう、また市民も参加して他人事ではなく自分事で考えるような番組で、関心事や社会課題を解決するのも非常に重要なことかと。その瞬間瞬間が楽しいというのもいいと思うが、マスメディアの役割として、それも一つ併せて入れていただければ。

小島委員：

県民として非常にショックなのが魅力度ランキング47位。そこを47位から少なくとも20位くらいになるような魅力度作りも必要かと思う。楽しい番組というかある程度強弱、そのへんをどうにかする。例えば下野市はこんなにすごいねと、そのへんを形作るようなものがFMゆうがおであっていい。その上で、市にはこういう自治課題とかがあるということ。教育的に下野市はすごいよという、人は自然に集まってくる。子供を育てるのに非常にいいよと。そういう特徴のある地域作りのための戦略を考えながら楽しい番組を作っていくというようなことも必要かなと思う。

先程根橋委員からフレイルの話があったが、私も(資料番組を)聴いていて、フレイルって一般的によく解らないのではないかと思う。フレイルは虚弱だよとか、自治医科大では講座もやっていたので、そういうのは自治医科大と健康情報を流していただけのいいと。リスナーの半分以上は年寄りだと思うので、年寄りに特化したものも。この辺は年寄り、この辺は中年といったメリハリが番組にも必要かと思う。こういう番組にはシナリオがきちんとあるのか。私も「男の広場」というので15分間(ピタラジに)自分でシナリオを書いて出演したが、話していくうちに「この通りいきませんから」といわれたが、実際に入ったらシナリオ通りだった。シナリオはたとえばこのウィークエンドワイドにあるのか？

事業者：

基本的にシナリオは作っていないが、作るパーソナリティもいるし、番組の中でここはシナリオがあるここはシナリオがないという部分もある。

番組の作りやパーソナリティ個々のやり方にもよるが、基本的にはシナリオなしでトークができるように指導・教育をしている。

数字や正確に伝えなければいけない情報は、資料や箇条書きのものを手元に置いているというものもあるが、いわゆる台詞・台本といったものは基本的にはない。

鈴木委員：

そうなる私が申し上げたことはなかなか難しいということになってくる。

例えば市の方が登場して市政について説明する番組もあるから、そういうときにパーソナリティも掛け合いがある、そういう中で良くなった部分とか課題とかをして、リスナーも市ではこんなことが課題なんだなということになる。あれも出る市の方の個性によってすごくハイテンポで上手な方と、原稿読んでるなという方といらっしゃって、それは市の広報努力となるかもしれない。

そういった番組では広報をそのまま活用するというのではなく、パーソナリティの個性を上手く活用してより良い市ができるような方向で進められれば。

小島委員：

番組スケジュールが配られたが、年4回出しているのか。

事業者：

4・7・10・1月の3ヶ月毎に発行している。

小島委員：

(公式サイトにあるPDF版を)印刷すると字がつぶれる。年4回であれば、聴取率を上げるために市に依頼して広報に掲載するのはどうか。年寄りにも優しいプログラムを何かに載せられないか。

小谷野副委員長：

検討させてください。マガジンは年4回出すことになっており、開局時は全世帯に配った。

小島委員：

パーソナリティ名が入っているものが欲しい。

事業者：

本来はマガジンの番組表をご覧いただくということが基本だが、マガジンは印刷の工程などがあり、1ヶ月半くらい前に原稿を入れるため、パーソナリティ名を載せてしまうと入れ替えがあった場合にいないじゃないかということになる。そのためあえて載せていない。

ところが、身近な方とかヘビーリスナーがどのパーソナリティがどの番組なのか知りたい、ということもあり、(PDF版は)補足的に作っている。文字が小さいので印刷されると文字が潰れるので、あくまでもネット上で見ていただきたい。

小島委員：

変更になる場合がありますと下の方に載せておけばいい。

事業者：

(注記は載せているが)名前が載っているのにその人がいないというのは印象が良くないと考える。

小島委員：

個人情報とかで、親しみがなくなる部分がある。市内のパーソナリティが多いから知り合いが聴く。個人情報からみで出さないというのがあちこちで見受けられるが、そのことが逆に親しみを奪っているというのもあると思う。その他にも問題はああると思うが、せっかくインターネットには名前があるのでマガジンにあれば、できるだけ多くの人に聞いて貰うのに、あえて隠す必要はないのかなと思う。

事業者：

隠しているわけではなく、いない可能性のある名前は載せられない。載せると3ヶ月残ってしまう。

また、マガジンとは別に番組表を作成し配布するのは予算の問題もあるが、社内で今後検討しつつ、配布については市に相談させていただければと思う。

もう少し親しみをというの、私もラジオを聴いてきた人間なので、個人的には感じるどころ。

小島委員：

(単に)「草」と言うとみんな興味を持たないが、(草の)名称を言うと興味が出る。名前は必要。

鈴木委員：

先程小島委員から出力の問題で話が出たが、実は私も家にあるラジオを聴いたら聴こえなかったが窓際に持って行ったら聴こえた。市で売っているラジオはどうか。

小谷野副委員長：

場所によりということになるが、窓際に持って行けば聴こえやすい。防災ラジオは感度がいいので他のラジオよりもよく聴こえる。ご自宅のラジオであっても聴こえないときはアンテナを立てたり、窓際に持って行っていただければ。

コミュニティFMの出力は20wが最大。当初は10wで、可聴範囲が狭かったので最大20wに上げた。なのでそれ以上は難しい。

鈴木委員：

何かがあったときに、FMあったのに聴こえなかったというのは大変なこと。

小谷野副委員長：

何かがあったときは窓際など聴こえるところに。

鈴木委員：

窓際に置いてという案内が必要。いざというときのために、それぞれの聴こえやすいポジションを探してくださいというアナウンスが必要。

事業者：

案内は番組などで、防災ラジオに関しては安全安心課さんで、窓際に、ということ伝えてる。電波の減衰があるので外に近いところ(に置くの通い)。

また表だって案内しているわけではないが、市役所の方にラジオのアンテナを向けていただければ入りやすい。直接問い合わせがあれば伝えている。

現在の市販のラジオはCDやUSBなどの機能にいったところに品質をかけてしまっているの、性能が昔に比べて落ちていていると感じる。防災ラジオはよい回路を使っているの、広めていきたい。

根橋委員：

加盟店を1年間集めたら特典を付けるというのはどうか。ちょっとしたもので色々工夫ができる。

お金をかけるとかではなく、ないお金をどうするかということを知恵を出せばいくらでもできる。それをすべき。せつかくある資産をもっと活用しないと。

小谷野副委員長：

カードの特徴として特典がある。加盟店をもっと増やすように努力を。軒数が増えれば大勢の方が協力してくれる。また、根橋さんがおっしゃったような、別のこと、行政との協力もできれば。

鈴木委員：

商工会との連携はあるのか

事業者：

特に商工会さんを通してというのは今のところはない。今後相談をさせていただければ。

鈴木委員：

商工会の会員さんからはFMの話はでないのか

猪瀬委員：

ポイント倶楽部で先月会長が生番組に出演した。商工会というより、商工会とは切り離されている住宅団体に活動されている方は多い。

小谷野副委員長：

加盟店募集中とあるが、また商工会さんにもチラシなどお願いできれば。

コロナで各店厳しいという状況もあるので。また協議させてください。

3. その他

次回の開催は8月末頃を想定しているが、状況を鑑みて改めて通知する(事務局)。

議事を終了し、16時30分に閉会した。

以上